

にしとみおか むこうばた
西富岡・向畑遺跡

伊勢原市 No.160 遺跡



1. 住居跡 全景 (東から)



2. 住居跡 掘り方 (東から)



3. 北カマド 検出状況



4. 西カマド 土器出土状況

● 主な調査成果

奈良・平安時代と縄文時代の遺構や遺物が発見されました。

注目すべき遺構としては、奈良・平安時代の住居跡が挙げられます。この住居からは、2つのカマドが見つかっています。最初のカマドは北壁に作られており、その後最初のカマドを壊して、西壁にカマドを作り替えています。西壁カマドの右袖側には、検出面から30cm、床面からは60cmの高さにテラス状の棚が見つかっています。壁の高さは1mを測り、床下からは多数の粘土土坑が見つかっています。住居の床面などを精査したところ、住居より以前に建てられた掘立柱建物跡が重複して見つかっています。

- 調査期間 2007年4月1日～2022年12月28日
- 事業者 中日本高速道路株式会社
- 調査原因 新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 奈良・平安、縄文
- 所在地 伊勢原市西富岡
- 遺跡位置 小田急小田原線伊勢原駅から北北西に約2kmの富岡丘陵上

